

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

| | | | |
|------|--------------|------|------|
| 整理番号 | 20 | 大学等名 | 山口大学 |
| テーマ | テーマ I・II 複合型 | | |

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、本事業をエンジンとしたアクティブ・ラーニングに関する学内環境整備、教職員・学生参画型「共育ワークショップ」等、学修者中心の環境づくりをはじめとした取組、さらには大学職員を主な対象とした「ラーニングアドバイザー養成講座」の創設と展開など、大学の教育改革を加速させ、学生・教職員が学び合うラーニング・コミュニティの醸成に努めながら学士課程教育の質保証を図る大学教育改革を進展させており評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、アクティブ・ラーニングに係る AL ポイント認定制度の学士課程教育全体への浸透や、コモンルーブリックの作成及び「ルーブリックハンドブック」を通じた全教員への周知などによる成績評価基準の平準化・厳格化の組織的実施、カリキュラムマップとカリキュラムフローチャートの更新、全学部・研究科へのナンバリング制度の導入などによる教育課程の体系化など着実に進展している。さらに、必須指標「学生の授業外学修時間」の実績値が事業開始時より増大かつ目標値を上回っていることをはじめ、任意指標を含め全ての指標が目標値に到達もしくは超えており高く評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長を事業統括責任者とした全学組織の「AP 事業推進委員会」の下、テーマごとの課題を検討・提案するテーマごとのタスクフォースの設置、国内外の研究者への AP アドバイザーの委嘱など実効性ある体制を整備している。さらに、「自己点検・評価タスクフォース」が毎年度作成する自己点検・評価報告書や外部評価委員会による自己点検・評価報告書に関する講評・コメントの次年度事業計画への活用、「共育ワークショップ」における教育改革等に関する意見聴取など、本事業に係る PDCA サイクルについても適切に機能していると評価できる。加えて、補助期間終了後に向けて、本事業を全学的教育改革加速のためのスタートアップ事業として、「大学教育機構」から「教育・学生支援機構」への再編や「教学マネジメント室」の設置が行われるなど、本事業継続の今後の展開が期待できる。

事業成果の普及については、AP 事業選定校間の情報交流、情報発信の主導的役割や、テーマ I・II 複合型幹事校との連携による「チーム AP」関連企画等におけるリーダーシップの発揮など、本事業成果の普及における積極的な貢献は高く評価できる。